分かる。例えば、だらりと垂れた花弁のものは品種名が「萍水想逢」で水になびく水草のイメージ、花弁がランダムに並んだものは品種名が「墨獅子」で獅子の鬣（たてがみ）のイメージとして楽しんでいることが想像できる。

ではどのような形で展示を行ったらいいか。今は、中国と日本の折衷様式がいいと考えている。つまり、①日本式の輪台をつけても品種の持ち味が壊されないものには輪台を用いる、②個々の品種が楽しめる形で、鉢を整然と並べる、③花が小さいものも多いので華やかさを出すために枝数を7本程度に増やす、④日本でも中国でも人気が高い小菊のトピアリーや菊の仕掛けを工夫し、来園者を楽しませると同時に菊や中国にまつわる文化を紹介する（写真１、２参照）。

以上のようなことを実践していきたいと考えている。今回、調査した中国菊の茎の長さや花の大きさ、輪台を取り付ける時期などのデータは、その基礎となる。データの信憑性を確認するためにも、この調査は何年か繰り返すことが必要だろう。また、中国菊の「品種の持ち味」を調べるために、次回は花の形態の調査に力を入れてみたい。

ΨΨΨ